

令和元年度 第3回四万十町文化的施設検討委員会 議事録

日 時 令和元年7月13日（土） 9：30～12：00

会 場 四万十町農村環境改善センター2階 大会議室

出席委員 内田純一、谷口和史、山本哲資、林 伸一、川添節子、田邊法人、酒井紀子、
刈谷明子、友永純子

欠席委員 林 一将、高垣恵一、池田十三生、青木香奈子、下元洋子、中平浩太

事 務 局 川上哲男教育長、熊谷敏郎教育次長

生涯学習課（林瑞穂課長、味元伸二郎副課長、森山典将主幹）

図書館・美術館（長木千葉美、谷脇八代美、山地順子、山口香）

（内田委員長）

今日の第3回検討委員会では、おもに文化的施設の基本計画の骨子の協議をします。

先日、内子町と西予市に視察に行きましたのでそのふり返りもと思っておりましたが、午後に図書館フォーラムもありますし、そこでまた話題に上げて進められればと思いますので、さっそくですが計画の骨子から協議を始めます。

お手元にある資料の中に図書館アンケートの集計結果がありますが、事務局から説明いただいてもいいですか？

（林課長）

はい。このアンケートは昨年から今年にかけて図書館・美術館で取ったものです。今の図書館・美術館のいい所・悪い所と、新しい施設を作るならどんなものかという設問です。本館と大正分館で別々にまとめました。原文のまま記載していますので、参考にいただければと思います。

（内田委員長）

ありがとうございました。

確認ですがこれは図書館にいらした方にアンケートを取ったんですね？

（林課長）

そうです。最初はなかなか（意見が）入らないので、（窓口職員が）声かけして書いていただくということもしていたようです。

(内田委員長)

年齢などは聞かず、この2問についてのみ訊いた？

(林課長)

いえ。年齢と性別、住んでいる地域も書いてもらいましたが、公表するに当たってそこまで出すのは、ということで、集計結果には反映しておりません。

(内田委員長)

分かりました。今後、基本計画をまとめていく際には年齢も大事になってきますし、生涯に渡ってそれぞれの世代でどういう使い方、どういう物語が描けるかを考える上で参考にできるかと、私は思いますから言ったんですけど、今日はそれぞれで見ておいていただくようお願いいたします。

それでは、基本計画の骨子について、お手元にまとめていただいた案があります。岡本さん、お願いします。

(ARG 岡本)

まず、文化的施設の意義と理念、ここの議論に大半の時間を割いてきたと思います。今まで皆さんから伺った思いを私のほうで案に文章化させていただきました。ポイントは「今なぜあえて作るのか」、これかなり議論になったと思います。委員会だけでなく講演会などの質疑等でも、町民の中にかなり見られる問いです。これについては基本計画なので、あえてこういう判断をして行うんだということを明示したほうがよいと思います。

私も様々な場面で町民の方と話しましたが、慎重なご意見は多々見られると感じます。ただもう決断してやるのであれば突き進むしかないわけで、設計・施工に入ってから本当にやるのかを議論してもしょうがないです。やると決めたのであれば、私たちはこういうリスクも承知で、しかし町の未来をかけてという判断の下に決断するに至ったと文章にまとめておいたほうが、今後の議論も無理がないと思います。

今日ハイライトして集中的に議論していただきたいのは、この点ですね。このような文章の方向性でよろしいか。さらに下記の「具体的な4つの役割」の項で、おおむねこの方向でまとめていいかという2点です。この先の文章はかなり追記しています。1～3を具体的にしました。転載です。基本構想における議論はとても良いものでしたので、新たに文章を改変するよりは、ここへ引っ張ってくる見せ方がよいと思っています。

ではコンセプト実現のために具体的には何をするのか。案では4つの具体的な方向性を示していますが、これについても本日、可能な限りご議論いただければと思います。

取りまとめをしている私が特に気になるのは、ここまで拝見した限りでは、図書館に関する議論や、立地、旧3町村間のバランスにおける議論がかなり煮詰まっている、少なくともこの委員会内では一定の合意があると見ていいと思います。

他方、美術館に関しては、議論が不足していると感じています。今日は美術館をどうしていくか。前にワークショップで女子高生が、そういう場所があれば全然変わってくるんですよと、言ってみれば彼女のような期待にどう応えるのか。それらをどう実現していくか。美術館の展示機能、あるいは彼女が言っ

たように、制作できるアトリエのような空間をどう考えていくか。そしてできれば、そこに図書館はどう交わっていただけるか。この辺がご議論いただければいいかなと思います。

なお（基本計画案の）2章から先は原則的に手をつけていません。

今回私から提案させていただく今後の進め方ですが、今日の午前中に皆さんにご議論いただきまして、午後に町民フォーラムで、ここにいる方々も多くご登壇いただき、どれくらい集まるか分かりませんが町民の方々からもご意見賜れると思います。

おそらく来月以降、また委員会があると思いますが、本日までの議論を受けて、私のほうで2章を除く基本計画案の下書きをして、次回に臨みたいと思っています。ある程度の叩き台があれば皆さん議論しやすいと思いますし、今まですごく基本的な入口の議論をさせていただいているので、私のほうで皆様の思いを汲み取って、3章4章に大幅加筆も可能だと思います。

進み方について皆さんの意見を賜ればと思いますが、事務局は以上のように考えております。

（内田委員長）

ありがとうございました。

それではさっそく第1章、とりわけ美術館を協議したいのですが、そんな所で進めさせていただきたいと思います。

最初に「意義と理念」ですが、ご意見はありますか？

（ARG 岡本）

追加的に説明しますが、私も耳タコになるくらい「本当に今やるのか？」を言い続けられ、正直不毛な議論になりつつあると感じております。これは折り合いのつく問題ではなく、やるならやる、やらないならやらない、やる方向である以上は、理屈は一つです。今の私たちのためではなくて、この町を将来に残すために、未来に投資をするんだというところを強く打ち出すのがいいです。

これはおそらく反論しにくいと思います。これは宗教論争みたいなもので、現在を重視するか未来を重視するかのどっちかしかないです。

歴史的に言えば、この町の先人は未来に投資をするためにこの町を作ったわけで、我々の正しさというのは現代だけを重視するんじゃないかというふうに思います。

それをここに書くことで、今後議論が起きた時に、「これはこう決めたんです。もはや言い出してもキリがないと思います」というふうに使える根拠になればいいと思います。

（内田委員長）

ありがとうございます。

この町の人々の歴史に学びながら、未来への投資なんだと、この視点で行こうということですかね。

それをしていくために4つの役割を上げていますね。ここに関連していかがでしょう？

山本先生。美術館を考えた時に、何かこう、もっとアクティブにでしたっけ？

（山本委員）

二つだけ経験談を話したいと思います。

デトロイトの郷土博物館という所に行った時、入口に牛が田をつく鋤を置いてあり驚きました。そこから入ってみると、アメリカの歴史、生活、科学が全部並んでました。その展示場を子供が走り回ってました。結論から言うと、郷土博物館の隣にエジソン博物館があって、その両方を通るスケジュールだったということで、先生まで走っていて驚きました。

二つ目はオペラ座です。入口に子供がずらっと座って話を聞いてました。土足のままで説明を聞いてるんです。

だから、子供と施設の関係が密接に活かされていると感じました。

もしそれが四万十町の美術館でもできるなら、計画に入れていただきたいです。以上です。

(内田委員長)

ありがとうございます。

確かにこの4つの中に「子どもたちの居場所」と表現しています。ややもすればこの「居場所」が「居場所のない子のための居場所」のイメージになりかねませんが、そうでなく全ての子の居場所だし、自由にみんながわいわいがやがやできる場所が基本じゃないかと。

それは大人もそうですね。それからそこを利用する基本的な考え方ですね。「静かにしないさい!」「騒いじゃだめ!」という場所ではない。そういうことを基本計画に据えられないか。そういう意味では多様性や自由を表現する部分もありますが、施設全体の雰囲気、あるいは利用の原則に当たる部分ですよ。

美術的な創造活動や鑑賞について、何かご意見は?

(山本委員)

ルーブル美術館に1か月の内7回行ったんですが、とにかくうるさい! 平気で大きい声甲高い声で所構わず話すんです。それが一番印象に残りました。

あそこの博物館や美術館は、紀元前何世紀も昔からの作品をずら一と並べて、結局7回行っても回り切れてないんじゃないかと、自信がありません。

とにかくそのうるさいところから逃げて観て回ったんですが、作品一つ一つがすごく大事にされて、それから手に取れるくらいの距離の区切りから見られます。それから模写を申請すればどこでも模写できるという繋がりが美術館と持てるということはとても大事だと思います。

それから、やっぱり歴史を大事にすることが文化を大事にすることに繋がっている。特にフランスの場合はルーブル美術館の隣に、オルセイユ美術館という近世の絵画を集めた美術館もありますので、そういう意味で文化を大事にする国は歴史を感じて羨ましく思いました。

他に僕が行った博物館には、水族館に病院があって、そういう所も見せてもらいましたが、それはそれで科学的に位置づけできる物を全て並べてるということで、勉強になりました。

日本の美術館については、東京の国立博物館、東京都美術館、西洋美術館に行ったわけですが、個展専門の美術館というのもありました。雰囲気が堅苦しいというか、ネクタイをしてないと見られないという雰囲気の所も結構目立ちまして、外国とずいぶん違う気がします。現在はだいぶ変わっているので、僕が言ってるのは間違ってるとは思いますが、見学者と美術館・博物館が一体化できる施設になればいいと思います。

(内田委員長)

ありがとうございます。

最後におっしゃったのは、「普段着で本物に出会える場」ということですね。カチッと正装でないと本物に会えないと思われちゃってるところがありますが、ここに来れば普段着で本物にも出会えるし、その物は最先端でもあるし、歴史、そこに暮らした人々の生活、営みに出会えるということが博物館にも美術館にも大事だと。

それから体験、展示以上のことをさせてもらえるんですよね、ルーブルだと。展示機能は一つだけ、それを模写したり触れたりする所。現代の体験型の箇所が重視されている。それを役割の基本に据えたいというお話でしたけど。

(酒井委員)

意義と理念については大事なことを聞かせてもらって反対のしようがないと思いました。

ただ、委員としての手前の準備でお願いがあって、この資料を前日までに送っていただくかPDFか何かで見られるようにしていただいたら、もう少し準備をして出られると思いましたので、次回以降は資料が手前に欲しいです。

あと、「意義と理念」の「具体的な4つの役割」で、改めて見ると大事なことがたくさん書いてあって、どれも欠かせないと思いましたが、四万十町ならでは目を引くものが、私の中では川しかないと思っているので、この図を全部丸く繋げて川の図があってもいいというか、通底したコンセプトのデザインとしては、川があるとインパクトがあると思いました。やっぱり四万十町は川の恩恵を受けてここまで発展してきた町だと思うので、川ありきじゃないかと思います。

それと、今は全国的にこういったコンセプトの図書館が増えています。個性的な面を打ち出すなら、そういった「ならでは」が一個あるといいと思いました。

山本委員の話聞きながら、この役割なんかもいいと思ったし、連携もです。

最近、委員を務めて、回数を重ねて学んでいくごとに、どう発言していいか分からなくて。国として、県として、色んな役割と外せないハードルがたくさんあってですね、自由闊達に意見を言いたいけど、そこはちょっとレベルの低い所の話だなとブレーキをかけてしまう所もあって、相当悩んでるんですけど。

そういった、やりたいけど本来的に理想とする図書館の在り方が分からない地域の人と、分かっているコーディネーターとの橋渡し、ギャップを埋めてくださる方を外部から入れることに、否定的な人もいますけど、実は私が、県内や国内や海外なんか関係なくて、そういう大事な人材に教えてもらわないと、育ててもらわないと、実際、文化的施設が使いこなせないと思うんですね。いいものを練り上げて。やっぱり4年後に開設するまでには人材の育成の面でギャップを埋めていく人が必要だと思ってます。

最終的に歴史の観点から、歴史で大事なものは差別とか思い込みで発生していることもたくさんあって、いつの間にか四万十町の地域の子は先天的に頭が悪いと言われることがあっておかしくないと思うことがあって、教育格差、地域格差や経済格差のために劣っているのに、将来的に歴史にその事実が残ってないなかつたら、そんな差別が生まれるかもしれないと思いはあるので、ここに住んでいる限りはそんなこととはないと気を吐く意味でも、歴史や情報を大事にしたいと思ってます。

(内田委員長)

ありがとうございます。

いま協議しているのは、この文化的施設の役割、これを建てる意義ですよね。酒井さんの発言の中にそういうとても大事なことがありました。これを建てる意味は、本論では未来のために建てるということに落ち着きますけど、差別をなくしていく、人権について深く考える、歴史を大事にするなど、そういう点も踏まえて「未来への投資」なんだと、できればもっとあったほうがいいなというふうに聞いてましたけども。

もちろんそれを誰が発言してリードして裾野を広げていくかが、持続していくためには大事な点です。

(友永委員)

古い年代というか、私たち世代の人にとっては、四万十町らしさを考える時、あまりお金もなく、地域も広いし、なんとなくまとまりもなく。そんな中で文化的施設という箱モノを作ることに対してすごく慎重になるのは事実です。

私も読み聞かせボランティアに出席していますが、今その箱モノを作る必要があるのか、四万十町に果たしてそういう箱モノを作っても、十和や昭和の遠くから利用するのに、利便性を考えても、大丈夫なんだろうかという意見のほうがやっぱり多いんです。私もなかなか、今建てるのか、どこに建てても、どこの会議に出席しながらも、ずっとそういう疑問があって、なかなか積極的に意見も言えないしなれない自分がいて、疑問を感じながら出席することが多かったんですが、こういうふうに言葉で出してくれたら「あ、そうなんだ」と自分の中にすっと落ちるものがあります。

やらなければ進まないこともありますし、そこで止まったら何もできないってことも本当に自分の中で実感があって、色んな人に言葉をかける中で同じ言葉が返ってくるののくり返しでしたが、そこで一步を進める、将来の子どもたちのために、というのを思った時に、そういうのがちょっとずつ町民の方にも理解されるんじゃないかと期待する部分があります。

60代になってくると、図書館は静かなものだとか、山本さんのお話に出たようにぎやかなのは嫌だなあとか。いっぱい(人が)来始めたら、これから外国の方とかもどんどん進出してくると思います。そこに、文化的施設だけは静かな空間であってほしいというのがあるのも事実です。

そこも踏まえて、どっちも満足できる施設になれば一番理想的ですけど、私自身がすごく、文化的施設を作ることに時間がかかったほうなので、逆に私がそれを周りの人に伝えることができるかなと今感じています。

(内田委員長)

ありがとうございます。

どちらも満足できる。静かな空間を味わいたい人にとっての静かな空間でもあるし、わいわい騒ぐ、あるいは伸び伸びと自由に自己表現ができる場でもある。その両方を達成できる場であることは、理念に掲げて、具体的な計画はどうか。岡本さんは具体的な例をたくさんご存じだと思うんで。

大方、友永さんがおっしゃったように進めて。

オーテピアが出来て、高知県内の図書館のイメージは変わったと思います。使ってみて初めて分かることはいくつもありますよね。

(刈谷委員)

話が「意義と理念」に戻って申し訳ないんですが、デジタル情報社会で学んでいくことの大切さですね。図書館や美術館にこの要素が追加されたのは、高齢世代と子育て世代個別に残せるものがあって、何か文化的施設の役割として新しい機能が一つ増えたことを実感しました。

それから「デジタル情報社会で生き抜く術を学ぶ」でも、これから子どもたちが成長するにおいて、本や美術と同じ次元で明確に身につけなければいけないし、身につけてほしいし、そういう社会で子どもたちはこれから生きていくわけなので、その重要性というものを本文中に具体的に、絶対に要るんだということを書き加えていただきたいと思います。

(内田委員長)

ありがとうございます。

技術の進歩と並行して新たな力が未来の子供たちに必要になるということですね。

一方、社会は非常に見えにくくなっている中で、どういう力が求められるかをもう少しここに書けないかですが、これは例えば、田邊先生、学習指導要領が来年から本格的に変わりますが、あそこで言われた力、対話的な学びなどを上手く取り入れることで理解が広まると私は思いますが、いかがですか？

(田邊委員)

おっしゃった学びという言葉に通じるかは分かりませんが、「この先に繋がる未来」というのが確かに想像はできますが計算しにくいです。デジタルといった文言があれば、そこにヒットする感じて理解しやすいとは思いました。

それと別件ですが、「具体的な役割」の2に「居場所」と「子ども」がありますが、単なる私のエピソードなんですけど、この前の中間試験が終わって女子と話してて、今からどこに行くって時に車を待って。行くところ無いんですね。JRの駅の中に役場のスペースがあるのはすごくいい感じなので、あそこで待ち合わせしたらどうかって。ただあまりにパブリックな意味で、女子高生が街歩きをする時に「役場で待ってるからね、って先生言えると思いますか？」って言われて。そこ重要なんじゃないかと。そういう諦めを持ってる部分がありまして、そういう自然に待ち合わせできる方向性があれば、高校生にはいいのかなと思います。

それと、学校が美術部という名だったんですけど改名して「クリエイティ部」になったんです。これはもともと去年、窪川高校をどうする？みたいな話をした時に、美術の先生が「美術って言い方でイメージされるものがどうしても“絵を描く”になる」って。デザイン志向とかあるモノ作り全般をカバーできる活動にしたいというんで「クリエイティ部」になりました。

ここに「美術館」と入ると、どうしてもイメージが「絵画を見る」になってしまっ。それがちょっと想像できないかなって。この案に書いてあるのは多分新しい価値観なんだろうけど、「見るだけ」というのに限らないネーミングがあれば分かりやすくなると思いました。

(刈谷委員)

田邊先生の発言に関連して。

図書館／美術館はこういう枠組みです、と決まったものではなくなってきた、多様性が出て来ていると思いました。美術や芸術って何なのかなって。

この間、ケーブルテレビで、ギターをやっている高校生女子が「こうちアイズ」のテーマソングを作って歌っている様子を拝見しました。音楽をやっている高校生も四万十町にいるんだなって。全然知らなかったの、未来への希望なんか感じまして。

じゃあ音楽も入れたらどうか。美術部をクリエイティ部にしてみたいに、美術館についてここで話し合う前に、美術館はどういうものなのか、今まではこうだったけどこれからはどうするのかの話をするに当たって、皆さんの意見をもう少し聞きたいです。

(酒井委員)

同じく、美術の概念が根本的に変わっていて、美術とは何か、何のために絵を描くことが必要なのかを考えた時に、自分たちが受けてきたような上手い下手で判断されるような括りで展示や、今の時代と逆行しかねない美術館展示のやり方になったら意味がないと思うんで、全部通底していることは同じですが、結局人は、魅力的な場所があったら魅力的な人が集まってきて、人が繋ぐと思うので、美術館を図書館の中に入れるとしたら、美術館の品物や展示物を言い出すと、今度はその施設内で別途費用がかかってきて、たくさんの制約がかかってきて、美術っていうものの専門家の話も聞きたいし、展示物も他のところから本物を借りて来て展示するのがいいのであれば、これくらい費用がかかると分かった上で議論を深めないで。

美術のほうは話が本当に進んでないと、この前、個人的に林課長とお話ししてすごく感じました。個人的には、図書館の蔵書や中身というのは、四万十町は四万十町の身の丈で、入口やきっかけ止まりでいいと思っています。大画面に、世界の美術館はこうだとか、全国の図書館はこうだとか、そういうのを見て、こんなものがあるんだ羨ましい、とまた発奮してもらえるきっかけだけあってもいいと思ってるんですね。

さっきのアンケート見てたら「今のままでいい」「満足してます」と、他の様子を知らない人はそう断言してしまう方もいるでしょうけど、子供たちにとってそこしか知らないからそれでいいというのは、あまりにももったいない。

身の丈の中で最大限活用できる場であればいい。目でもそうだし、繋げる人もそうだし。その時に人はすごく大事だと思うもので、両輪で議論を深めていけたらすごくいいと思うんですけど。

(内田委員長)

ありがとうございます。

確かに美術館の議論が少し足りないの、そこを今日と思っています。

まさにその、新しい美術館・博物館を作ろうという意図があるんですね。図書館も同じことですが。

この検討委員会を続けてくる中で、「自己表現」や「創造」を4つ目の柱にして、これは図書館でも美術館でも大事な役割を持つてるんだということになってるんですが、もっともっと書き込んで具体的なほうが分かるんだろうなとは思いますが。

(酒井委員)

4年後のためにここにいる大人の私たちが完結させたものを、4年で作るイメージじゃなくて、そこか

らまだ育てていける要素をまだ残してある、育つ系の要素が含まれていればもう少しワクワクできる気がします。

(内田委員長)

作って終わりじゃない、そこからまた新しいものが膨らむ機能を持っていると。柔軟に多様な展開ができる所に、大きな意味を持とうということで、こういう役割ですと言いきっちゃうんじゃないんだということですね。

かといって今流行りのカタカナを使えば分かるかといえば分かりませんよね。美術館という言い方をカタカナにしても、そういう問題でもないし。

それからこの間も視察に行きましたが、内子町は「図書館」と言わず「情報館」でした。確かにどういう名称で行くかは難しいです。

私たちが考えているのは、固い考え方を突破して、もっと色んなことが柔軟にできる施設をイメージしている。

高校生の新しい考えをどんどん取り入れることも必要です。作曲してる子もこの町で近くにいるわけで、窪川高校も美術部がクリエイティ部に改名した。そういう、今ある最先端の動きを情報として取り入れ巻き込みながら、それを踏まえて作っていくことが大事です。

(友永委員)

この会の発足前に町内視察に行ったようですが、その時には、郷土資料、四万十町の歴史に関する民具などが雑に扱われているという話があったと思います。その話が最近ここに全然出てこないと感じています。そういうのは美術に入るのでしょうか？

(内田委員長)

そうですね。前回、図書館の林さんからもそういう発言がありました。

この会が発足する時にはそれら全部含めてということでしたが、2回目の会で、郷土資料を無下にするのではなく、協議する中でちょっとそこは置いておこうという話にはなりました。

でもご発言があるのは、それがぞんざいに扱われていて、その方針自体が見えないんじゃないかという根本的問題ですね。それはこの委員会よりももっと違った所でのメッセージだとは考えていまして、そのような理解を今はしています。

(ARG 岡本)

私のほうでメモを取りながら話を伺っていましたが、気になった点をいくつか。

最初に酒井さんがおっしゃった、これだけ検討が進むと、町民として果たす役割の重さも感じて大変だとは思いますが、私は町民の皆さんにこのスタンスで行ってほしいと思っています。

自分、あるいは将来のお子さん・お孫さん世代が欲しい未来を作るために、私はこうしたい。それでいいと思います。それは町民の有志として参加している皆さんの責任よりも自由だと思います。重い責任を負っていただいているのですが、最後はやはり誰かが欲しているものが何かが重要だと思います。

これは町や村の郷に、寄合にありがちですが、みんなで妥協し合った結果、誰も使わないものが作られ

るケースってよくあります。

お祭りなんかでもそうですよね。みんなで妥協し合った結果、すごく無難な屋台だけが出て、あまり盛り上がりがない。何かイベントやフェスをやる時に大事なものは、それぞれが自分のやりたいこと、自分がこういう場を楽しみたいって主張し合わないといいものは出来ないです。

勉強していくとこういうのは難しいのかなという意見も出てくると思いますが、そこは皆さんの立場であまり気にしなくていいと思います。法的に良くないことなら私や役場が止めますし。法的に問題というなら留意すべきは、本当にいけないことなのか、変えるべきことなのか、今の時代はすごくあります。

10年前には考えにくかったですが、今はいわゆる特区制度もあって、国の法律上はアウトでも特定地域ではテスト的にそれを認可するということが実際行われています。四万十町だとドローンに関する取り組みは進んでいます。もしかしたらこういうことを考えていいんじゃないか、場合によっては国に提案し働きかけることも視野に入れていいです。

今までの議論で出た「ドローンで宅配」は結構調整が必要になるでしょう。例えば宅配中に荷物が落下して四万十川に流れてしまった場合、それをどう処理するのかが、現実的に詰める時に出てきます。ただ、そこは突き抜けていったほうがいいです。必要であればルールは変えられるべきものです。

それと同時に、変わっていく部分を考えた時、どこまで、今までの良さを活かしつつ、これからやっていくかは必ず出てくる議論で、「あれ」か「これ」かって選択肢に分かれやすいんです。「静けさ」か「にぎわい」か。でもそれは皆さん、両立させる方向で考えたらいんじゃないか。暮らしていく上での様々な選択肢をつまらなくするのは、「あれ」か「これ」か、世の中の「AかBか、どちらかしか得られない」という発想だと思うんです。でもそうではなく、みんながハッピーになるのは、あれもこれも両方を実現することを貪欲に追及することです。

ここにいらした先生方が子供たちに伝えたい価値観は多分それでよね。確かに一つの答えしか出ない学問もあります。でも生きていくってことは答え一つではなくて、先生方が日夜教育の中で考えるのは、AがダメでもBがあるじゃないとか、望ましい進路選択が叶わなくてもそれで人生終わりじゃないとか。だから一つしか選択肢がないと思うよう子供を育ててしまうと、それは極めてリスクが高いことですが、常に複数形であると考えていいと思います。

現実的なことを言えば、「にぎわい」と「静けさ」は同一フロアで同居させることが技術的に可能です。それはどちらかの選択肢だと「どっちにするか」の議論になりますが、その両方を叶える、と言っていただければ、それに見合う技術や研究開発を探し出せばよいことですし、無いならこの町の中で作っていいです。

実際の仕事は我々ですので、無理を言っていただいてもいいんです。あれもこれも無いから探してこい岡本、以上でいいんです。私は町の皆さんのお金を使わせてここに来ていますから、皆さんの最大限のリクエストをとにかくできる限り叶える必要があります。だからそこは決して自己規制される必要はありません。

それ以外の点ですと、デジタル情報社会を生きていくためのリテラシーやスキルを育成するのは、これからのこの施設に非常に重要だと思っています。

最近ですとセブンペイ問題があります。問題なのは社長の記者会見がお話にならない、この人これでよくやられているなってくらい、情報社会にある程度明るい人間からすればぶっ飛ぶような会見をさ

れました。ただこれから情報社会を生きていくお子さんたちには他人事ではなくて、あそこで言う二段階認証くらい分からないと今の子供たちは本気でまずいんですよね。二段階認証の説明をしている記事がほとんど間違えているという、かなり笑えない話があります。セブンもすごいけど報道もすごい。みんな何も分かってない。でも技術的には超基本的な話。そういったことのリテラシーをきちんと身につけてもらう。それによって便利さの背景にある危険を察知する、優れた子供になってほしい。これは大事です。

特に、中山間地域のこの町で育つ子供たちに、高度なリテラシーを授けるのは重要な責任です。都会の子より四万十の子のほうが遥かに賢いじゃないか、というふうに外から見てもらえるように。先ほど酒井さんが言われた、四万十で育つ子は DNA レベルで馬鹿、みたいな話を完璧に覆すことができるわけです。

あともう一つ。酒井さんの言うように、歴史を学ぶことの意味を説明するのは大事だと思います。折しもハンセン病裁判の問題が出てますが、あれは完全なる無知と偏見の塊です。私たちだってある意味で加害者だとは思いますが、私たちがきちんと勉強すれば、元患者さんたちにつらい思いをさせることはなかったはずです。それは知らないから起きてしまう。だから歴史をきちんと学ぶことは、まさに私たちが無自覚に偏見で人を差別しないし、逆に変に差別されたりもしない、差別されたらおかしいと言える価値観を育てるためだと、この中できちんと定めたほうがよいと思いました。

そこは私のほうで文章化させていただければと思います。よく「歴史は大事だから大事」というのがありますが、それだと説明になってないので、酒井さんのご指摘はまさにお子さんを育てているお母さんの発言だと、非常に感服しました。

四万十川がモチーフという話も重要です。今までも話の中で「還元する」「流れていく」「循環する」というモチーフを大事にしようと話したので、今後ビジュアル等を作る際に考慮したいです。

ちなみにビジュアル等ですが、下元さんをお願いしようと思っています。下元さんはビジュアル分野が得意なので、できれば地元の方に表現していただいたほうがより良いものになると思います。

最後に一つ、美術館の話です。

これは私のジャストアイデアですが、「アート」という言葉で捉え直したほうがいいです。

例えば、最近チームラボという会社が一世を風靡してます。私は彼らが東大でベンチャーやった頃から知ってるんでかなり感慨深いものがあります。今や世界的に超有名人です。

他にも、perfume をプロデュースしているライブマテックスという会社。Perfume も世界的に知られたデジタルアート集団になっています。

今は「アート」と言った場合、今までのアート以外にもデジタルアート、メディアアート、パフォーマンスアートの分野が活発になっています。

そこを広く捉えて、最終的に「アート」を使う時に、「〇〇アートってあるよね」という観点でご議論いただくといいと思います。「美術館」だとまさに作り上げられた作品があって展示されてるというイメージがどうしても抜けません。でもパフォーマンスアートと言え、若者に人気の路上ダンス等々も全部入ってきます。これは今の若い子たちからすると、ダンスは学校の必修科目なので、基礎教養なんですよ。上の世代の武道よりはダンスのほうが志向される傾向にあり、30代くらいまでにとっては高校レベルで基礎教養化しているので、ダンスも含め、それだって一つのアートだという観点を入れたほうが、これからの世代に対してよいと思います。

参考までに言うと、日本で一つだけそのような施設が整備されています。山口市の山口情報芸術センター「YCAM」という施設です。図書館と芸術センターがセットになっています。山口市内にありますが、正直そんな便利な所ではありません。利便性だと、こことどっこいどっこいと言っていいです。山口市の場合、空港が山口市に無いので結構不便なんですけど、毎年、万単位で人が来ています。なぜならばアジアでは先駆的なメディアアートの情報センターを作ったからです。建って10年ちょっと経ったと思いますが、すっかり定着している。世界的に見たら、日本の情報芸術、メディアアートの拠点は「YCAM」だと認識されていると言ってよいです。

これは山口市だからできたことでは決してありません。山口市は弱小自治体だからこそこういう施設を整備して、情報芸術の分野においては横浜などより山口のほうが海外で知られている。

そういう意味では、ここをきちんと、「アート」という広い分野での議論をしていくと、四万十町にとっては可能性が広がるんじゃないでしょうか。実際、四万十町は、海・山・川という素晴らしい自然環境を持っているだけに、アート活動において非常にクリエイティブな場所であることは間違いありません。だからこそすでにこれだけの美術館がありますしここまでの美術活動が行われてきたんです。その部分の町の良さをより活かしていくと、四万十町らしさをもっと表現することに実は繋がります。

長くなりました。以上です。

(内田委員長)

ありがとうございます。

岡本さんに中間的まとめを頂きましたが、山本さん、いかがでしょうか？

(山本委員)

僕なんか歳取ってますからね、「美術館」で通用する気でいしましたが、来年、高知市で全国高校生文化祭がありますのでそれも含めて、新しいアイデアで美術館に取り組みないとならないと感じています。

酒井さんが言われましたが、四万十町とは何かと言ったら柱は四万十川と山だと思っんです。それと海。それをどう活かすか。人間は自然から学びますので、それを含めて美術館の柱に、こういうものを建てておかないといけないと思いました。

歴史だと、例えば四万十町に大きな埴輪があるとしたら、それだけで全国から人がたくさん来ると思っています。石のやじりとか、素晴らしいものがありますので、そういうものもきちんと位置付けできる四万十町になってほしいです。

美術館に関しては、以上です。

(内田委員長)

ありがとうございます。

四万十町らしさとして川と山があり、そのことが様々なアートを展開する上でものすごくいい条件で、そこをもっと売り出していこうということですよ。その拠点が文化的施設なんだと。単なる拠点であって箱ではないし、それがずっと地域全体で守られる必要がありますよね。アート活動をするのに非常に好条件だと押し出していく。

美術館という名前は、美術でも芸術でもそれは構わないと思います。海・山・川のある価値ですよ。

そういうのが今の話でだいぶ繋がった気がいたします。

林さん、いかがでしょうか？ 今までの論議で、どこからでもよろしいのです。

(林(伸)委員)

皆さんの意見が良いものばかりだし、文章については申し分ないし、大体のことがこれに当てはまると思います。本当にこれは未来に残すものだと思ってます。

図書館自体は本一つにしても、何かやりたい時に、そこに見つけに行くとか、そういう形で子供たちは活用できますし、ご年配の方は楽しく本をを読みに行く所でもあって。

体がケガすると病院に行くように、心の病院という感じで出来ればいいと思います。特に技術もそうですが、心で感じる部分が多い。この文化的施設に求められるものは、コミュニティもそうですし、こういう部分が大切だと思ってて、うるさいとか問題はあると思いますが、それは技術面や建物自体を分けることで解決できる問題だと思います。

できるだけここでいっぱい意見を皆さんが出してやっていけば、議論を深める・深めないでだいぶ違うものが出来ると思うので。

四万十町自体がこういう建物がない。大正にはまだ綺麗になった図書館がありますけど、本当にこういう施設が無いので、町に一つあれば町民に利益があるものだと思うので、文化的施設というのは大事だと思います。

アートと言い出すともものすごく広い分野になって、どれを取るのかということにもなりますが、そういう場所が広く開かれる建物であってほしい。

建物自体は箱でも構わないと思うんです。使う人たちがどう使うのかなので。職員の研修などを重視していけない建物だと思います。

発展という部分では、まずそこへ行って何をしたいか分からない人を導くじゃないけど、そういう部分を見つけたら一番いいのかなと思っててですね。

そんなところを考えていかなきゃいけないし、自分たちが議論していった。

間違いは、これだけ居て無いとは思いますが、色んな人の意見が吸い上げられるとか、使いやすいとかが一番だと思いますので、そこが一番できたらいいと思ってます。

(内田委員長)

デジタル情報社会というのは、やはりお子さんが使って？

(林(伸)委員)

はい。うちの子たちがスマホを使って色々検索することはよくやってます。確かに気をつける大事な部分だと思います。

でも、デジタルの物だけ置かれても、それを使う人が分からなかったりと思うので、そこも教えてくれる人がいてデジタルだと思うんですね。ただただタブレットが一つあったからって、使いこなせる子よりは、それが使えるよう教えてくれる人がいる、情報がある場を約束しないといけない気がします。

(内田委員長)

ありがとうございました。

ここまで文化的施設の役割を巡って意見を頂いて、大体方向が膨らんだと思いますが、もうちょっと先まで行ったほうがいいでしょうか。

これ以降は具体的に実現するためのプランですが、ここにも繋がる発言がたくさん出て参りました。

ビジョンに繋がるコンセプトの項も、先ほどの4つの役割に即してアクションプランを出していくと。ここはまた今日の議論を踏まえて膨らませていただくことになります。

図解については、酒井さんのおっしゃった川のような絵があったほうがいいですか？

(酒井委員)

パッと見て全てを繋げてるような川が、インパクトがあって、常に繋がるとか、一貫して全部通底しているものではあるので、例えば今の図では円の周りが4つありますけど、この4つを川で繋ぐとか、「川」ってというのが一目見て分かるぐらいに。

川があればもう、山と海は繋がってるので、ブランドとして使っているのが四万十川ってことになっているから、山と海は自然と繋がるものだとしても、川を前面に押し出したら無意識下でもずっとあるのかなと思います。あと、繋がりもそれで表現できるのかなと、はい。

(内田委員長)

ありがとうございます。

他にいかがでしょうか？ 第一章ですが、谷口さんはこの辺、何かありませんか？ 全体でも構いません。

(谷口委員)

みんなが話してそれをコンサルがまとめてくれた。それで僕はいいです。皆さんよくまとめてくれるので、異論はないし。

先ほど話した美術館は、僕らの年代はやはり「アート」より「美術館」のが強いんですが、全然問題ないです。美術館と図書館を繋げる空間をコミュニティというふうに僕は捉えています。

山口市の例を岡本さんから提供されました。なぜ山口市がこういう施設を作ったかの経緯は定かじゃないですが、非常に利用者は多いとのことで、四国においては前例がないものを四万十町で、皆さんの言った山・川・海を主軸にして展開し、作ってどう活用するかはこれからの問題であって、こういうものを後世に残しておくという方向でやっていきたいと思います。

ちょっと離れた話ですが、前に仕事の関係で、くろしお大橋を作った現場の人に話を聞きに行きました。僕らの知るコンクリートの作り方ではとても橋の工事はできないので、どうするかというと、コンクリートを作るので3万平米、一番多い所で7万平米のコンクリートを使って、くろしお大橋の基礎を作ったと。どう管理したかかというと、三日三晩出ただけのコンクリートをそこに投入して作り上げたという、僕らの想像もできないとこで苦労してるわけで。

役所の人は前例のないことをやりたがらないことを、僕は経験上思ってますが、その(工事の)人たちには前例がないわけです。そういうコンクリを作った方法の前例がない。前例がないということはどう

作るかが非常に問題になるわけで。その人たちは必死になってその方法を対応する。で、誰もやってない、前例がないから自分たちが作って行って、民間の人と一生懸命それを考えながらやっていったと、作っていったという、非常にプライドを持った仕事だと話を聞いて感じました。

この施設とは直接関係ないわけですが、そういうふうにして物を作っていくことは、我々がこの時代で後世にどういうものを残していったらいいかを真剣に考えて、作っていくことが大事で、最も大事なことはそれをどう活用していくかで、みんなにそういうふうに広めて行って、ここにこういういいものがあるから利用しようと、住民がどうしたらそう考えるかが知恵だと僕は思います。

資料館もそれなりに方向性を明確にしてアウトラインを引いてもらって、こういうふうにして大事にして、高性能というのは今はできないけど、そういうふうにやっていきますよという方針を出してもらえれば、誰もが納得すると思うし、みんなすぐ箱モノ作ってって印象が良くないんですが、僕はそう思っなくて、箱モノは必要だったら作るものであって、見るものじゃないし、ましてそれを上手く活用しようとしなから箱モノと、言葉上でそう表現をするのであって、上手く利用していけば、その時代にあって何十年も合わない場合もそれはあります。それは時代の要求でやむをえないことであって、そこまで考えても思考に無理があるかなど。そういうふうにしなから、利用しようとする、活用しようとする気持ちがそれを活かしていくという方向じゃないかと僕なりに解釈します。

この四万十町に募ってみんなの話を集約して、作って、思いを持って達成していけると僕は思っております。

(内田委員長)

ありがとうございます。

前例のないことをやるというのがすごく大事なんですけど、アートも基本的にはそうなんですよね。前例のないことをどんどんやっていくのがアートなんだし、そういう意味では、普通の人ではなく飛び抜けた人を育てる、そういう人が生まれるような地域にどうやってなるかを指すということでしょうか。

今言われる学力でも、平均でいいみたいに言われてるじゃないですか。全国平均よりちょっと上ならいいと、目標を定めちゃう。じゃなくて、ずば抜ける人が生まれるくらいの物差しを、この町は持っているというね。我々は今そういうことにチャレンジしているというお話があったんだと思うんですね。

そういう意味では、委員会の腹積もりとか、リアクションや気持ちはすごく大事です。オーテピアを作る時も、私は基本構想から関わっておりましたが、あれだけのものを作るんだって構想を出した時に、県の教育長が「やります！」とおっしゃったんです。これはすごく大事な発言で、記憶に残っております。確保します、って。そういう中で我々が動き始めるわけで、案外そういうところは大事なんです。

ただ、無理やりやれというわけではないですよ。お互いに気を遣いながら会議をしますが、しかし、なあなあの関係ではなくて、緊張感を持ちながら、オーテピアを作ってきた経過があります。

そういう意味で、前例のないものにチャレンジするんだから、そこは分かってもらうことが必要だと、僕は思います。

(酒井委員)

先ほど皆さんが話していたのを聞いて、細かい点ですが、やるんだという気持ちと、活用しなければた

だの箱モノになるということと。

最近の私が体感したことで、チームラボに入って53歳まで行った方が、シイタケの企業をするとのことで、十和に来て、最先端のシイタケ事情とか、世界ではこれからどう売り出すのかとか、話をしてもらったことがあるんです。でも集まったメンバーはやっぱり生産者なんですよね。世界事情を聞いて刺激されるけど、いやでもジャイカに登録するとかなんとかいう時点で、刺激されてすごいなと思っても、次のステップを踏むのにどうしたらいいかの時点で、話を聞いて楽しかったけど明日も菌を植えるしかすることないってなると私は感じました。持ってきていただける情報と地域のギャップが大きすぎて、コーディネーター的な人が欠けていると思ったんですよね。

すごい人が来て話してくれる、でもその地域の人にそれを下ろす時は、自分が一旦そこを引き受けて、間を地域の人から拾いますって人、ワンクッションができる人が、それこそ冒頭で言ったみたいに、それこそ町内の人に限って話だったらいけないと思うんですよ。

全世界を見る人がいて、岡本さんみたいにコーディネーターとして入ってもらって、クッションを入れてくれる人がいて、地域の人を育てていくっていう役割の人が不可欠で。それも施設を支えるサポーターの存在と被るのかなと思います。それがないと、結局箱モノになるんだろうなと思ったりして。

あとこの委員会自体も、高校生とか、そういった年代の意見をもっともっと入れるべきだと、話してて思います。委員会のほうに若い世代を呼ぶのはきっと緊張してしまうから、こっちから行っていいなら高校で話を聞くとか、そんな形もあったらいいと思いました。

(内田委員長)

ありがとうございます。

後半はその通りですね。これからもっと意見を聞く場をどう作るか。

前半も確かに、繋ぐ人がどういう人になるかで、じゃあ司書ならいいかというところでもないですよ。資格があればいいか、学芸員であればいいか、単純にそういうものでもない。むしろ質を問うのであれば、もちろん司書資格は取ってほしいですが、それで安心ではなくて、最先端に地域の暮らしを繋げる、そこを組織できる人の探し方、そういう力量の人を置くか育てる機能を合わせていなければ、箱モノになっちゃうでしょって話ですよ。

(刈谷委員)

それに関連して、「人と人をつないでいく機能を」の所で、学校現場と図書館にも関係性が、図書館から、希望があればそちらに行きますよと投げかけはするけど、そこはもう間に合ってますとか、そこまでの余裕がないとかがすごくあると思います。

そこを埋める役割ということは、司書でも何でもないそこに特化した人が、ちゃんと組織に存在するという形で、かつ雇用も確保されることが大事だと思いました。

(内田委員長)

そうですね。そういう方の雇用が安定して、仕事が持続的にできる体制が必要になる。

いわゆる非常勤公務員が多くなって、短い期間で交代して、でもそうじゃなくて、専門性のある非常勤職員であれば、持続性がある制度で運用できる体制が必要だという話とも繋がるのかもしれない。

今日の計画ではもっと今のような論議を加えることで、質の高い、力量のある人、あるいはサポート制度を確保しようということだと思っんですよね。

ありがとうございます。

(田邊委員)

構いませんか。

関連計画で、町は教育振興計画を新しく作るように意見公募していると聞くんですが、先ほどのアートなどの話を聞いてると、教育も大きく変わらなきゃいけないし、新しい未来を考えると教育ってやっぱり大事だと思うので、教育振興計画との関わりも入れていただけたらと思いますけど、どうでしょう。

(内田委員長)

ありがとうございました。

そうですね。今考えているわけですから、そのような視点を、教育振興計画のほうにも反映していただけるといいですね。私もそう思います。

(ARG 岡本)

これ(草案)を作った段階では策定中だったので外していましたが、基本計画案に入れておきます。

これを読んでもらうと図書館・美術館をしっかり位置づけているので、上位計画をきちんと踏まえながら、一方で町の教育成果の一つの計り方の指標が、新しい文化的施設がどれだけ使われているかというふうになってるんですね。

だからこれは責任重大だと思うんで、非常に期待を込めた書き方をさせていただいてるんで、きちんとリンクさせるようにします。

(林(伸)委員)

すいません。僕らが今こうやって色々話をさせてもらってますが、岡本さんに聞きたいです。これは間違った方向には行ってないでしょうか？

根本的な問題ですが、ちゃんとしたものが出来て色々されてると思うので、ご意見を今出してもらってるのかもしれませんが、間違っていないかと思われてきて。実際建てるに当たって色々な評価を頂くことになるだろうけど、岡本さんの意見を聞かせてもらえると、僕らももっと発展できるのかというところがあるんです。

(ARG 岡本)

私は、非常にいいプロセスで進んでいると思っています。

一つは時間を取っていることが大きいと思います。私もこちらに来るようになって1年ですが、昨年度、私が参加する前から、皆さんかなり時間を取っているのは大きいですね。

あとは視察の予算を取ってることです。これは私も、必ず現地を見に行きましょうとどの自治体にも言いますが、やっぱりやらない自治体もあるんです。

私が言うのは、何億円という買い物をするのに、100万円の視察予算を組めないってヤル気あるのか、

というのがすごくあって。もし個人住宅買うんだったら、皆さん、相当回数、住宅展示場や現場に行くと思うんで。公金を大きく支出するからこそ現場を見に行行って話を聞くってすごく大切なプロセスです。それがしっかりできているのが非常に良い点だと思います。

酒井さんが言われたように不安もあると思いますが、ここまできちんと上滑りになるわけでもない議論をされてると思います。蔵書冊数をどうするか広さをどうするか、そんなの何をしたいか決めたら自動的に決まるんです。その数字最初にありきって全く意味がないんです。まずいケースは蔵書を取りあえず見栄で、よその町がこれだけあるからウチは1.5倍とか、全く根拠がない見栄の戦いになるんですが、そういう所に行っていないのが有難いです。

逆に皆さんが何をしたいのか、どんな未来が欲しいのかをたくさん語っていただければ、そこから数字に落とし込むのは私どもの仕事です。私どものほうで、町財政見通し、将来の人口見通しを、現状のラインで見てったらこれくらいが将来的に財政的に負の遺産にならない形で行けるとこを出せると思います。

私どもにとっては意外ですが非常に仕事しやすい状況だと言えます。これが本当に単なる数字の睨めっこやどこかに負けたくないからウチはこれくらいだとかになると、えらいことになったなあと思心しますが、今の所は良い感じだと思います。

それでもまだ町の皆さんがどう思ってるか不安でしょう。

11月に米こめフェスタで出展する計画がありますので、一つの大きなポイントだと思います。町役場としてではなくこの委員会を軸にしながら、あるいは酒井さんたちが呼びかけているようなボランティアの集まりと一緒にしたほうが良いと思っています。そういう場で一緒に出るのが良いと思います。

余談ですが、昨日ちょっと夜遅くに出て、朝、高松を出て愛媛の図書館を見て、20時くらいにこっちに着いたんですが、「窪川の夜はこんなに賑やかなんで」って驚いて。昨日はお祭りだったんですね。にぎやか。こんなに若者いるんだ、と。とまあ、祭りの時はこんなもんですが、祭りってそこが良いんですよ。祭りの時は普段出ない人たちが出てくるんで。それこそ高校生たちですね。四万十町外に通ってるお子さんたちも、地元の遊びは必ず遊びに来ますから、普段町外に出ている子たちが来る場所に出て行って、こういうこと考えてますよと言う場を持つ。賛否両論あるでしょうが、それでも、無関心よりは、反対でもいいから関心を持っていただける場を一つ一つ作れば、皆さんにとっても確信を深められると思います。

私どもの仕事としては、米こめフェスタの時に、皆さんに、徒手空拳で何かしてくださいは無理なので、その時まで、それこそ酒井さんから要望があった分かりやすい図を作って。それも下元さんに懸かっているんですが。下元さんには今、別の仕事もいくつかしていただいているんですが、彼女は優秀なグラフィックデザイナーなので、皆さんにとって一番納得感のある、「本当に川のことよく分かってるよねー」というような図が出来上がると思います。最終的にはこの計画書の概要版として、とにかくみんなの共通理解、新しい施設が出来たらとにかく貼っておく、みたいなものが出てくると思います。

ということで、林さん、ご安心いただいています。

(林(伸)委員)

ありがとうございます。

(内田委員長)

ありがとうございました。

話題をちょっと変えてみて、川添先生。小学生たち、子どもたちから見て今、こういう施設が出来ることについて、どんな姿に見せたいか、見えていてほしいか、校長先生をされて思う所がございましたら。

(川添委員)

こういう文書を町の方はあまり読まないと思います。だから紙 1 枚でパッと見て分かるものを提示するのが強みになると、別の会で聞いていて、この町の人たちみんなに完成を楽しみにしてもらえようような施設を作りたいなら、一目見て分かるブランドを用意して、今回してるノートにも貼ってあるといいと思います。

小学生については、子ども議会をする計画があって、それを町内から集めるのがなかなか難しいということで、窪川小が試しにやることになって、ちょうど岡本さんにコーディネートしてもらえると。やっぱりいきなり新しいことを、やったこともないところに持ってこられるとすごく二の足を踏みますが、コーディネーターが居て、できるような道筋をつけてくれるとなると、学校はすごくやらせたいんですよ。子どもに。教科書だけで学ぶんじゃなくて、そういうこともどんどんやらせたい。だったら私がちょうど文化的施設の委員をしてるので、この議題は子どもたちに、今度出来る文化的施設がどんなものであればいいと思うのかというテーマで議場において、町長役なんか作って話し合うっていうので、岡本さんには事前に、文化的施設の計画の説明してもらって、じゃあ君たちはどういうものが中に欲しいかとか、どういう内容にテーマがなっていくかは分かりませんが、そういう企画が 1 月にあるので、12 月から学習を始めて。楽しみにしています。ここにおいでの方にもその日は見に来てもらえたらいいと思います。

(内田委員長)

ありがとうございました。そうやって盛り上がっていくことが大事ですよ。

もう少し時間を頂いて、前回の町外視察について、感想などありましたら出していただきたいです。

(ARG 岡本)

職員で行かれた方からレポートは頂きましたが、どうでしょうか？ 職員さんで発表できる方はいますか？

それでは、山地さん。私が適宜補足していきますのでお願いします。

(図書館員)

(前に立ってから) まず、職員研修で一泊、3 つの図書館に行きました。

最初は徳島県淡路島の洲本市立図書館。このように昔の紡績工場を残して利用するというので、市民の要望で叶えられました。壊されることになってましたが市民の声で新しく図書館にして、すごく素敵な図書館でした。入口から説明します。ワンフロアで広くて、入るとすぐカウンターがありました。特徴的だったのがレファレンス専用カウンターでした。

次に、右に進むと「こっちが児童本コーナーだ」と入ってすぐ分かるようになっていて、かなりゆとり

もありました。印象的だったのが、書架がとても低くて、ずっと奥まで見渡せることでした。あまり死角がなくて、利用する家族連れもゆったりと過ごせそうでしたし、安心して時間を潰せるような、騒いでも、さっき言われていたような静かさを求める方は児童コーナーに来ませんので、児童コーナーはのびのびと閲覧できる雰囲気でした。

それから入ってすぐ左手に新聞と雑誌がありました。ここからレンガ造りの中庭が見えます。そこも常連さんらしい方がゆったりと新聞を読んだりくつろいだりされてました。

ここで特徴的なのが、入口からまっすぐ進むと、それがちょうど児童と一般の間で、テラスがありまして、そこは出入り自由で、窓に向かって椅子も並んでるんです。だからみんな後ろの人が見えない。自宅、もしくは別荘にいるような雰囲気できつろげます。

2階は書庫でした。一般の方があまり利用されない物が集められていて、でも視聴覚室や会議室はいつでも市民が利用できるようになってます。

おもなイベントは、開館前からのメンバーの市民が実行委員会を起ち上げてまして、2日間に渡って「図書館市民まつり」というのをやってます。館内以外に、目の前にある広場でも、たぶん出店があると思いますが、ここでみんなで盛り上がっているそうです。

感想・気づきですが、ここには専用駐車場がありません。でも来館者数は一日に500～600人。理由は、付近がイオンといった大型施設や市立病院などが多くある場所で、建った当時は周辺にあまり施設はなく、そこにぼんと目立つ存在だったそうですが、だんだん商業施設が集まりにぎわってきて、どんどん人も増えたんだと思います。

駐車場がなくても、中心市街地なのでバス停が近くにあって、そこから徒歩5分で行けるだとか。あとは自転車での利用もですね。

館長さんの話で印象的だったのが、三つの観点や四つの視点といったことを常に職員に意識させて、自分たちの仕事にプライドや誇りを持って市民の皆さんに対応してください、それを忘れないで働いてもらうことによって、スピードや効率が良くなって、そういうことを職員みんなと共有しているということでした。

次に兵庫県の明石市立図書館ですが、ここは対照的に、駅ビルというか。明石駅が目の前にあるビルで、ここも駐車場や駐輪場がありません。ビルの4階が図書館ですが、すぐ下の階には書店があります。ここは指定管理の図書館で、明石市長が図書館に思い入れがある方らしく、費用も惜しみなく出されていて、理想とする図書館に欲しい物が全てある印象を持ちました。

それと、自動貸出機や自動返却機、書籍クリーニングの機械もありまして、ホテルを意識した造りで、全てがホテルっぽい印象を受けました。普通の公共図書館とは違う雰囲気がありました。

さっき言った、お金があれば欲しい物が手に入るというのを全て並べています。

ここもとにかくスペースが広くて、児童エリアにも色んなコーナーがあって、普通の児童コーナーとはやっぱり違うなど。ここものびのびと騒いで大丈夫ですし、ゆったりと過ごせる所でした。

一般エリアもとにかくまっすぐ広いんですね。本当に奥に何があるか分からないくらい広い。

あとは、ゆっくり過ごしてもらうために椅子が多く、羨ましいと思ったのは学習室が広いことでした。

最後に伊丹市の図書館ですが、ここも市街地で駐車場がありませんでした。ここの図書館の一番の特徴は、市民の企画で、年200回くらいのイベントと展示を、市民が全部持ち出しで、図書館側はその広報だけで150万くらい出ましたけど、市民の努力で、ベストオブイヤーというのを選ばれたりするん

です。

伊丹の作家さんのコーナーは常設展示です。伊丹の歴史を大事にされてるという印象でした。

あと、ヤングアダルトコーナー。市内の中高生が月に2回ほど来て、選書も行われているとのことで、すごくいいことだと思いました。

ここは児童書庫がすごいんですけど、面白いと思ったのはその地下に多目的室や、講演会やイベントのためのホールなどがあるところで、そこに行く時に児童書庫がガラス張りで見えて、面白いというか楽しいというか、はい、そんな感じでした。

3館の視察を終えて、四万十町ではこんなに広い場所はないですが、最初にすごくいいと思ったのは洲本図書館で、ワンフロアで利用者がぱっと見渡せて、使いやすいと思いました。

以上です。

(内田委員長)

ありがとうございました。

職員さんもどんどん勉強してくださって、今ある図書館にも色んなサービスが展開できていくんじゃないかなと思いますね。

何かご質問等ございますか？

【質問なし】

(事務局)

すみません、事務局からですが、オガールプロジェクトについて書いた本や、猪谷千香さんの講演会をやりますんで、今日チラシをお渡ししたいと思います。ポスターもあるので、帰ってから貼っていただいたら広報になると思うのでよろしくお願いします。以上です。

検討委員会の数もなかなか厳しい状況ですので、次回講演会も猪谷さんの講演会前の午前中にやらせていただきたく思います。また連絡いたしますのでよろしくお願いします。

(ARG 岡本)

今回は基本計画案の2章を除く部分に関して皆さんとおおむねの合意ができればと思います。

そうすると、「大体こんなものを作ろう」という意思が出来るので、9月以降にはストーリー作りをしたいと思います。この第2章の部分はぜひ皆さんと一緒にワークをしながらやっていきたいと思ひまして、そこまで行くといいと思ひつてます。

(刈谷委員)

今、私は十和で読み聞かせボランティアをしていて、そのグループで助成金をお願いすることになりまして、さっき歴史の話もありましたが、正置友子さんという絵本の研究をされてる方をお招きして、戦前・戦中・戦後で本がどう変わっていったかをお話ししていただきます。

9/15に十和の役場でやるので、また十和のチラシをお渡ししますので、興味のある方はご参加ください。

(内田委員長)

では、これで閉めさせていただきたく思います。ありがとうございました。